

# 1 令和4年度 小城市立三里小学校 学校経営構想

## (1) 学校経営の基本理念

三里校区は、少子化・高齢化により、地域コミュニティの存続が危うい状況にある。

そのなかで本校は「地域の中の学校」としての役割を果たすべく、様々な地域連携活動に積極的に取り組みながら、学校運営を進めている。なかでも「三里ふれあい自然塾」主催の自然体験活動を「本校ならではの教育」と位置づけて、教育課程の中に組み入れて積極的に取り組んでいる。

今年度の学校現場は、小学校学習指導要領の完全実施と同時に、働き方改革の推進が求められている。つまり、新時代の教育に向けて持続可能な学校運営体制の構築を優先すべき状況にある。さらに新型コロナウイルス感染症対策等、危機管理体制のさらなる充実と「新しい学校の生活様式」の構築も求められる。地域連携における過大な学校負担を見直して、学校が保護者・地域住民・関係機関と適切な役割分担を図り、「**すべては目の前の子どもたちのために**」という共有の目的に向かい連携していく体制を提案していきたい。そして、国策でもある「学校における働き方改革の推進」にも取り組み、業務改善と意識改革を進めることで、本年度の本校教育課題に真摯に向き合える職場環境をつくっていききたい。

### ① 学ぶ環境を創る

学校は、教科の学びはもちろん、人としての生き方や人間関係を学び、自己実現に向けて成長していくための場である。そこで、私たち教師は、常に研修と実践を重ね、授業を通して、児童が主体的に学び、成長していく環境（人的・物的）を創る努力をしていきたい。

### ② 高い志をもってたくましく生きる力を創る

めまぐるしく変化する社会の動きに主体的に対応し、たくましく生き抜く力を育むには、児童一人一人に課題をもたせ、挑む経験をさせることが大切である。勇気ある挑戦の過程を通して、苦しみや喜び、達成感や感動体験を味わわせ、自立への道を歩ませたい。

### ③ 地域の中の学校を創る

学校は、地域のニーズに応え、地域の理解と協力を得て、特色ある学校教育を創造していかなければならない。そのために、学校から保護者や地域に広く情報を発信すると共に、地域の人材やもの、声を積極的に取り入れて、地域と共にある学校を創っていききたい。

## (2) 学校教育目標とそのとらえ方

### 学校教育目標

**「ふれあい チャレンジ きらりかがやく三里の子」の育成**

#### ふれあい

自分のまわりの人や自然環境、地域社会などに興味・関心を持ち、積極的に関わりながら、そのよさに気づくことができる。

#### チャレンジ

自分の課題解決や目標達成のために、難しいこと、きついこと、苦しいことにも挑戦し、最後まで全力を尽くすことができる。  
また、一人ではできない課題に対して、仲間と共に励まし合い、協力し合って取り組むことができる。

きらり

かがやく

日々の生活の中で、「よい」と思うことにすすんで取り組むことができる。

互いのよさを素直に認め合い、個性や特技を生かしたことに積極的に取り組むことができる。

### (3) めざしたい子ども・教師・学校の姿

#### 【めざす子ども像】

み	みんなと なかよく ふれあう子 (徳)
さ	さいごまで あきらめずに がんばる子(体)
と	ともに よさを認め合い 学び合う子 (知)

#### 【めざす学校像】

学び合う喜びを育む学校(知)

豊かな感性を育む学校 (徳)

地域と共に歩む学校 (体)

#### 【めざす教師像】

子供に寄り添い伸ばす教師 (知)

挑戦し学び続ける教師(徳)

地域と連携し教育効果を高める教師(体)

### (4) 本校教員が意識するキーワード

「感性」「創造」「連携」「発信」

個々の職員が、それぞれの思いや考えを認め合い、学び合い、それぞれのパフォーマンスを発揮できる環境をつくる一員となり、三里だからできる教育、三里ならではの教育を創り出していく

### (5) 具体的な取り組み

#### ① 学力向上(新しい学びへの挑戦)

- 校内研究の充実(国語科「読むこと」の指導を中心に研究)
- 家庭学習の徹底
  - ・ 家庭学習十ヵ条
  - ・ 自主学習のポイント活用
- 読書活動の充実
  - ・ 家読の推奨(「はっぴいぶっく」「読破賞」の取組)
- ICT利活用教育の充実
  - ・ 電子黒板、タブレットPCの有効活用

## ② 心の教育（魅力ある学校づくり）

- 人権・同和教育の推進
  - ・ 支え合う学級づくりと「人権教室」の内容充実
- 道徳教育の実践と充実
  - ・ 「教科としての授業づくり」の工夫
- 特別支援教育の充実
  - ・ 専門機関との積極的な連携とインクルーシブ教育研修
- いじめ・不登校を出さない取組
  - ・ Q-Uテスト結果の利活用による学級集団力の向上
  - ・ 「心のアンケート」の活用
  - ・ 「いじめ0宣言」の見直し
- 明るいあいさつ・正しいことば遣いの徹底（「ぼかぼかの言葉の木」）

## ③ 健康・体づくり（「食は命」の教育）

- 健康・安全教育の充実（新型コロナウイルス等感染症対策を重点に）
- 基本的生活習慣の育成
  - ・ 「早寝・早起き・朝ごはん」の奨励
  - ・ 家庭教育指針の活用
  - ・ TV、ゲーム、メール4ない運動
- 食育・給食指導の充実
- 縦割り班による共遊の工夫
- 朝ランニングの取組と外遊びの推奨
- 徒歩による登下校

## ④ 学校における働き方改革の推進（心身の健康増進と働きやすい職場作り）

- 支援体制がとりやすい組織の見直し。（各業務の複数体制）
- やりがいを持って元気に働ける職場環境を目指す。

## ⑤ 教育効果を高める育成会・地域との連携

- 地域への温かな協力に対する感謝
- 教育効果を高める育成会や地域との連携

## （6）本校教育の特色

- ① 地域連携の推進による共育
  - 学校行事と地域行事の共同開催（運動会・三里フェスタ）
  - 育友会・青少年育成会・三里ふれあい自然塾との連携推進（三里梅まつり）
- ② 縦割り活動による豊かな人間関係の育成
  - 縦割り班集会（隔週月曜日朝）と共遊
  - 縦割り給食（毎日）
  - 縦割り掃除
  - その他の行事（一年生を迎える会、三里ウォーク、運動会、クリーン大作戦等）

- ③ 幼保小連携・小中連携によるなめらかな接続
  - 年2回以上の「幼保小連絡協議会」の開催
  - 三里保育園との連携の推進
  - 小城中学校との相互参観や情報交換、体験入学などの交流《義務教育9年間を見据えて》
- ④ ボランティア活動
  - 毎週木曜日の通学路ゴミ拾い（新型コロナウイルス感染症拡大時期は中止）
  - 縦割り班によるクリーン大作戦
  - ペットボトルキャップ集め
  - 募金活動
- ⑤ 「みさとはっぴいぶっく」の取り組み
  - 誕生月に本の贈呈
  - 読書活動の充実（家読の勧め）
- ⑥ 立腰教育の実践
  - 毎朝、全校での立腰タイム
  - よい姿勢の保持と集中力向上

## （7）学校運営の工夫（プロジェクトによる学校運営）

2つのプロジェクトチームを編成して学校運営を行う。

小規模校なので職員数は少ないが、学校力が低下することがないように、学校運営の活性化を図り、組織力・教育力（学校力）をいっそう高めていく。

プロジェクト会議を定期的に行くとともに、学期に1～2回程度（隔月）のチーフ会議を開催し、情報交換や協議を行いながら、各プロジェクトチームの活性化を図る。

また、地域や保護者に配布したり、教育委員会に提出したりする対外的な文書については、「起案方式」による作成・発信を行い、情報共有を図る。

### ① チャレンジプロジェクトチーム

「自発的・自主的な態度と自ら問題解決に挑む実践力の定着を図り、社会性を育む。」

「家庭学習の深化を図りながら、自ら学びを進める学び方の定着を図る」

・家庭や地域と連携し、基本的な学校生活習慣の徹底を図る。図書館教育を通して、読書習慣の定着を図り、豊かな感性を育成する。

・読む力の定着をベースに表現力の向上をめざす校内研究を推進するとともに、ICT利活用による指導法の改善に努める。

### ② ふれあいプロジェクトチーム

「ゆたかな心、やさしい心を育む」

・「命や権利を考える人権教室・人権集会」を計画的に実施し。いじめや不登校の未然防止や早期発見に努め、いじめ・不登校ゼロを目指す。

・生活科や総合的な学習の時間を活用して、地域の方々の協力を仰ぎながら、「地域のひと・もの・こととふれあい、体験を通して学んだことを発信する活動」を仕組む。